

平成19年度第1回 公立大学法人熊本県立大学教育研究会議  
議 事 録

日 時：平成19年5月14日(月)午後2時30分～午後4時30分

場 所：公立大学法人熊本県立大学 大会議室

出 席：学長 米澤和彦  
副学長 古賀 実  
事務局長 角田岩男  
文学部長 三木悦三  
環境共生学部長 大和田紘一  
総合管理学部長 松野了二  
学術情報メディアセンター長 松岡 泰  
委員 河原畑廣  
委員 源島真一郎  
委員 坂本元子

オブザーバー：永尾アドミニストレーション研究科長

事務局：豊田事務局次長、手島総務課長、稲葉企画調整室長、井上教務入試課長、鉄戸学生支援課長、  
田中学術情報メディアセンター事務長、安達班長、林田班長、元島主幹、林参事

1 辞令交付

米澤学長から、河原畑廣委員、源島真一郎委員に任命辞令を交付した。

2 開会(進行：豊田次長)

3 学長挨拶

4 委員紹介

新任の河原畑廣委員、源島真一郎委員から挨拶、その後、各委員から自己紹介があった。

5 議題(議長：米澤学長)

(1) 審議事項

名誉教授の称号授与について

事務局から、資料1に基づき元文学部教授 登尾豊氏及び元総合管理学部教授 市村憲治氏の2名について名誉教授称号授与の基準を満たしていると説明があった。また、三木文学部長、松野総合管理学部長から、2名の推薦理由について説明があった。

特段の質疑なく、審議の結果、2名への名誉教授の称号授与について議決した。

文学研究科博士課程設置について

事務局から、資料2及び資料3に基づき、「大学院文学研究科日本語日本文学専攻(修士課程)を課程変更し、博士課程を設置したい。学位は博士(文学)、平成20年4月開設、入学定員2名(収容定員6名)、教育課程の概要は資料記載のとおりとして、設置認可申請するべく準備を行っている。今後、経営会議、理事会の承認をいただければ、6月下旬に文部科学省に設置認可申請を行うこととしたい。」との説明があった。また米澤学長から、「文学研究科英語英米文学専攻については、準備が整ってから、おって博士課程設置としたい。」との説明があった。

審議の結果、文学研究科博士課程設置について議決した。

平成20年度カリキュラム改正素案について

事務局から、資料2及び資料4に基づき、平成20年度カリキュラム改正素案について、「現行カリキュラムは科目数が増えて枝葉が茂りすぎて幹の部分が見え

にくい状態にある。そこで、学生が学習計画を立てやすいように整理して科目数を削減する、また、非常勤講師の授業科目を見直して専任教員中心のカリキュラムとするという学長の指示に基づきカリキュラムの見直しを行った。本会議で素案についての御意見をいただき、5月30日に開催される理事会で改訂方針を決定いただく予定である。方針決定を受け、次回の教育研究会議においてカリキュラム改正案について御審議いただく予定である。7月以降、教職課程再申請、諸規程整備等を行い、平成20年4月から新カリキュラム実施としたい。

教養教育ではプレゼミナールの充実、キャリアデザイン教育システムの構築、新熊本学の充実、情報処理基礎科目の見直しのための改正を行うこととした。」との説明があった。

続いて、各学部長から、専門科目について、「文学部日本語日本文学科で『地域文化コース』、英語英米文学科で『英語教育学コース』を、また、学部共通の『人文学コース』を新設する。環境共生学部では専攻から学科制への移行、科目のスクラップアンドビルドを行う。総合管理学部ではコース制の明確化、科目のスクラップアンドビルドを主な改正の内容とする。」との説明があった。

審議の結果、平成20年度カリキュラム改正素案について議決した。

委員から、キャリアデザイン教育の内容、文学部各学科のコース、環境共生学部の学科制への移行等についての質疑応答があった。

#### 環境共生学部学科再編について

大和田環境共生学部長から、資料2及び資料5に基づき、環境共生学部学科再編について、「これまで1学科3専攻であった環境共生学部を、平成20年度から3学科に再編する。学科の名称については生態・環境資源学専攻を環境資源学科に、居住環境学専攻を居住環境学科に、食・健康環境学専攻を食健康科学科にすることとしたい。」との説明があった。

特段の質疑なく、審議の結果、環境共生学部学科再編について議決した。

#### 文学部、環境共生学部定員増について

まず、三木文学部長から、資料5に基づき、文学部の定員増について、「日本語日本文学科、英語英米文学科ともに、平成20年度からそれぞれ入学定員40名から45名(収容定員160名から180名)に増員したい。」との説明があった。

続いて、大和田環境共生学部長から、「環境資源学科について、平成20年度から入学定員を20名から30名(収容定員80名から120名)に増員したい」との説明があった。

また、事務局から、配付資料に基づき、各学科・専攻の近年の志願状況、定員増に伴う文部科学省への届出等に係るスケジュールについて説明があった。

特段の質疑なく、審議の結果、文学部、環境共生学部定員増について議決した。

#### 平成20年度入試の実施方針

- 1) 選抜方法及び選抜区分毎の募集人員について
- 2) 選抜試験日程について
- 3) 入試広報について

事務局から、資料6に基づき、平成20年度入試の選抜方法及び選抜区分毎の募集人員について、「特別選抜、総合管理学部自己推薦型入試及び一般選抜試験は昨年度までと同様、環境共生学部環境資源学科及び居住環境学科で新たにAO入試を導入する。試験区分毎の募集人員については、環境共生学部食健康科学科以外の学科について変更を行う。」との説明があった。

続いて、選抜試験日程について、選抜区分毎の試験日及び合格発表日について説明があった。また、入試広報予定としてオープンキャンパスを7月29日に実施するとの報告があった。

審議の結果、平成20年度入試の実施方針について議決した。  
委員からは、総合管理学部AO入試の出願時期等について質疑応答があった。

## (2) 報告事項

次の事項について、資料に基づき、事務局から報告があった。

### もっこすプラン2007の策定・届出について

事務局から、資料7に基づき、「3月30日に平成19年度年度計画“もっこすプラン2007”を熊本県知事あてに届出を行った。全教職員を対象にした“もっこすプラン2007”全体説明会を4月17日に開催した。」との報告があった。

### 定例記者会見について

事務局から、資料8に基づき、「4月13日に4月期 理事長・学長定例記者会見を開催した。“もっこすプラン2007”策定、創立60周年記念事業の展開、高大連携に関する熊本県教育委員会との協定締結、情報流出事故の経験を活かした『ネット社会を生き抜くための知恵と常識』刊行等を発表した。」との報告があった。

### 創立60周年記念シンポジウム「春・進歩・・・大学と学問」について

事務局から、資料9に基づき、「4月28日に創立60周年記念シンポジウム「春・進歩・・・大学と学問」を開催し、高校生を中心に約300名の参加があった。」との報告があった。また、当日実施したアンケート結果について報告があった。

### 平成19年度一般選抜における追加合格者決定について

事務局から、資料10に基づき、「平成19年度一般選抜において9名の欠員が生じたため、追加合格者決定業務を3月28日に実施し、追加合格者9名を決定した。」との報告があった。

### 非常勤講師の任用について

事務局から、資料11に基づき、「平成19年度非常勤講師任用については、平成18年度の教育研究会議で承認をいただいた。その後、講師の都合により就任辞退された科目、日本語B-1及び日本語B-2、英語口頭表現及び英語口頭表現、理科教育法について後任の講師を任用した。」との報告があった。

### 高大連携に関する熊本県教育委員会との協定締結について

事務局から、資料12に基づき、「3月30日付けで本学と熊本県教育委員会との高大連携事業に関する協定を締結した。具体的な取組を行うモデル校指定の手続きについては、県教育委員会の高校教育課で検討いただいている。」との報告があった。

### 現代GP、特色GPの申請について

事務局から、資料13に基づき、「平成19年度現代的教育ニーズ支援プログラム(現代GP)に『くまもとさんち(産地)の食育プログラム-食育コミュニケーター育成を通じた3つの改革-』の取組を、特色ある大学教育支援プログラム(特色GP)に『もやいすと』育成プログラム-地域実学主義の要となる全県キャンパス・キャリア形成教育の実践の取組を申請した。」との報告があった。

### 科学研究費補助金等の採択状況について

事務局から、資料14に基づき、「平成19年度科学研究費補助金について、本学からは、43件の応募を行い4件が採択された。内訳は文学部1件、環境共

生学部 2 件、総合管理学部 1 件であった。」との報告があった。

平成 19 年 管理栄養士国家試験結果について

大和田環境共生学部長から、資料 15 に基づき、「平成 19 年管理栄養士国家試験を本学から現役（新卒）の学生が 41 人受験し、34 人が合格した。合格率は 82.9%であった。」との報告があった。

以 上